

みのり太鼓でどんどん「世界進出」したい！



みのり太鼓メンバー
はらだなるみ
原田 成美さん

世界進出の“野望”を生き生きと笑顔で語ってくれた原田さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.137

池花池に先発隊の白鳥が飛来しました。先発隊は十分な体力がある成鳥だそうです。今年には気温が高いせいも立冬を過ぎたのも忘れてしまいます。満開の山茶花や菊の花を楽しみながら・落ち葉の絨毯を踏みしめて散歩に出るのもいいですね。今回は、みのり太鼓のメンバーで小美玉市竹原地区にお住まいの原田成美さん取材します。

太鼓をはじめた

きっかけは…

原田さんが和太鼓を始めたくっかけは、「小学5年生の時、学校アクトビティ事業で和太鼓兄弟ユニット「は・や・と」を観て、お祭りの太鼓とは違う和太鼓を『かっこいいな!』と思ったんです。私が入っている地元にも、みのり太鼓があったことは知っていたので直ぐに入っちゃいました笑。確か：10月から11月にアクトビティがあったって、12月には入団しました。今年で入団して10年目。やっと2ヶ月に突入です。毎年演奏に行くところ、ときには呼ばれて行くところもあります、必ず人の輪や人脈が広がりましたね。今年、市役所に入庁したのですが、お客様から『みのり太鼓の子だよな?』って言われた時は、一員として見てもらっていることが嬉しかったですね」とニコリ。

また、「入団したばかりの頃は、他にもやりたいことがあるのに太鼓ばかりに…と、気持ちが滅入ってしまっただけもありました。やりたいことの一つとして始めたけ

ど太鼓ばかり…という葛藤もありました。それが吹っ切れたのは高校の部活動が終わった時ですね。野球部のマネージャーをやっていたので遠征とかあって本当に大変でした。でも監督さんがとても理解のある方で、『地元でやっている文化活動なら続けた方がいい』と言ってくれて、太鼓が私の中でやりたい事の一つじゃなく「太鼓をやりたい」という気持ちに切る替えることができました。太鼓のメンバーも部活に行く時間を理解してくれていたので続けられたのだと思います」と笑顔で話してくれました。

さらなる飛躍を目指して

「仕事で、今年から国際交流を担当することになりました。小美玉市はアメリカのアピリン市と姉妹都市になっていて、過去には和太鼓でも交流があったんです。今回担当になったことをきっかけに、アピリンで太鼓をたたいてみたいと思います。実現したら凄いいと思いますか?」

実は、今年の8月にはご招待を受けてベトナムで演奏してきました。日本の伝統文化の代表として呼んでも光栄でした。みのり太鼓としても、私としてもベトナムは初だったので、海外の人は和太鼓を見慣れていないというか、反応が凄かったですね。スタンディングオベーションで…これをきっかけに、どんどん世界へ進出していきたいですね。太鼓には定年がないのでこれからも続けられるだけ続けていきたいと思っています」と原田さん。

和太鼓ワークショップ

ぜひ参加を!

「12月16日から4回、太鼓のワークショップが始まります。人数によつてですが、マンツーマンで太鼓を経験できるいい機会だと思います。これをきっかけに私みたいに太鼓をやりたくなって思ってもらえたらいいですね」と話す原田さんはきらきら輝いていました。

(藤田 佐知子)